



Title	業績リスト(2000)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2001, 7(1), p. 47-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56756
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

業績リスト (2000)

基礎看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 小笠原知枝, 久米弥寿子, 馬場環, 山中登喜子, 安藤昌代, 田中結華, Bookbinder, M. (2000). ターミナル期にある癌患者の痛み管理とサポートケアを妨害する諸因子の抽出とその対策. 平成11年度研究成果報告書, 1-63.
- 2) 阿曾洋子 (2000). 訪問指導事業に基づく調査研究, 公衆衛生, 64(12), 886-890
- 3) 阿曾洋子, 中野智津子, 都築朝子, 梶山紀子, 稲垣子 (2000). 新卒者の職場適応と自立の支援を考える, 看護展望, 25(5), 39-50.
- 4) 阿曾洋子, 中村裕美子, 高田喜代子, 趙林, 高鳥毛敏雄, 中西範幸, 新庄文明, 福田英輝, 村上茂樹, 多田羅浩三 (2000). 八尾市における寝たきり高齢者の実情—高齢者の友愛訪問による調査から—IX (報告書).
- 5) 大野ゆう子, 杉山裕美, 大島明, 津熊秀明, 味木和喜子 (2000). 大阪府における乳がんの有病率の推定に関する研究. 地域がん登録の精度向上と活用に関する研究. 平成11年度報告書, 95-100.
- 6) 大野ゆう子, 中村隆, 矢野忠, 中村博文, 門田守人, 左近賢人, 永野浩, 堀正二, 佐藤秀幸, 佐藤洋, 藤本春美, 稲邑清也, 原内一, 辻聡子, 笹井靖子, 杉田塩, 三浦早苗, 佐伯有香, 辻本朋美, 村田加奈子, 杉山裕美(2000). 長期療養時代の保健医療福祉システムの検討(1). 統計数理研究所共同研究リポート126, 1-234.
- 7) 大野ゆう子(2000). 特集: 21世紀のBMEタイムテーブル 保健医療システムとBME. BME, 14(1), 25-28.
- 8) 大野ゆう子, 稲邑清也(2000). 看護婦の「忙しさ」探るタイムスタディのアプローチ. Japan Medicine, 126, 1.
- 9) 大野ゆう子, 中村隆, 長谷川敏彦, 村田加奈子, 杉山裕美, 笠原聡子(2000). 国民栄養調査に基づく日本人高血圧割合のAge-Period-Cohort分析. 第20回医療情報学連合大会論文集, 636-637.
- 10) 平河勝美(2000). 看護基礎教育を受けた学習体験の一事例. 研究論叢, 7, 79-83.
- 11) 高田喜代子, 阿曾洋子, 田中結華, 板倉敷子, 古賀輝美, 木村静, 伊部亜希, 玉井由理子 (2000). 高齢者における褥瘡予防の観点からみたマットレスについての研究—体圧, 血圧, 血流, 腰部皮膚温湿度, 寝床内温湿度, 寝心地官能検査より—. 大阪大学看護学雑誌, 6 (1), 5-12.
- 12) 中岡亜希子, 小笠原知枝: 訳(2000). WHO がん管理プログラム—グローバルながん対策の推進—. がん看護, 5(2), 166-167.
- 13) 村田加奈子, 大野ゆう子(2000). 高齢社会における保健医療提供人員数推計で医師動態モデルを構築. Japan Medicine, 143, 1.
- 14) 辻本朋美, 三浦早苗, 中山博文, 大野ゆう子, 山口武典, 亀山正邦(2000). 一般市民の脳卒中に関する知識. JSA News, 4, 12-13.
- 15) 佐伯有香, 大野ゆう子, 平河勝美, 笠原聡子, 藤本春美, 安藤邦子, 森田輝代, 福岡富子, 門田守人, 左近賢人 (2000). 患者情報とタイムスタディデータに基づく看護提供時間推定の試み. 第一回看護情報研究会論文集, 43-44.
- 16) 石井豊恵, 大野ゆう子, 笠原聡子, 佐伯有香, 安藤邦子, 福岡富子(2000). 看護ケア提供量把握の為の業務時間分析. 第一回看護情報研究会論文集, 45-46.
- 17) 村田加奈子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 安間明日香, 柄沢郁美, 早川友里, 長谷川敏彦(2000). 高齢社会における保健医療提供人員数推計のための医師動態モデルの構築. 第20回医療情報学連合大会論文集, 632-633.
- 18) 杉山裕美, 大野ゆう子, 笠原聡子, 大島明, 津熊秀明, 味木和喜子, 長谷川敏彦, 松本邦愛(2000). 医療需要からみたがん有病者数についての検討. 第20回医療情報学連合大会論文集, 640-641.
- 19) 北村有子, 大野ゆう子, 村田加奈子, 笹井靖子, 石井豊恵 (2000). 大規模フォローアップデータベースに基づく急性心筋梗塞発症者の抑うつ度とライフスタイルの変化に関する検討. 第20回医療情報学連合大会論文集, 760-761
- 20) 中山博文, 辻本朋美, 三浦早苗, 大野ゆう子(2000). 脳卒中における一般市民の意識調査. 週刊医学界新聞, 2404, 4.
- 21) 手島昭樹, 谷貞和明, 大野ゆう子, 井上俊彦, 平岡真寛, 山下孝, 三橋紀夫, 角美奈子(2000). 医療費実態調査研究 Patterns of Care Study による施設の臨床的精度管理. 瘡と化学療法, 27(8), 1201-1207.
- 22) 藤田麻里, 矢野忠, 大野ゆう子, 笹井靖子, 三浦早苗, 辻聡子(2000). 高校生における肩こりと東洋医学的所見およびストレス要因との関連性について. Health Sciences, 16 (3), 223-235.
- 23) 神崎初美, 窪田英明, 芦田信之, 城戸良弘, 大野ゆう子, 田間恵賢子, 織田百代, 濱口弘子, 森口直子, 小室多恵子, 山本英美, 大石浩子, 細見幸枝, 世良田秩丘, 山本広美, 皆木景子, 壺田泉, 佐々木和義, 長谷川利典(2000). 患者の心的状況のフィードバックシステム—告知された早期胃がん患者における心的状況データベース作成のピロッドスタディ—. 第20回医療情報学連合大会論文集, 680-681.
- 24) 古賀輝美, 阿曾洋子, 高田喜代子, 八田かずよ (2000). 病院における褥瘡の予防に対するドレッシング材貼用の実態. 第31回日本看護学会論文集—成人看護Ⅱ—, 129-131.

- 25) 伊部亜希, 玉井由理子, 阿曾洋子, 高田喜代子 (2000). エアマットレスの褥瘡予防効果の検討—エアマットレスと4種類のマットレスとの体圧・寝心地比較から—. 第31回日本看護学会論文集—看護総合—, 175-177.
- 26) 杉本信子, 上原ます子, 阿曾洋子, 八田かずよ, 高田喜代子 (1999). 特別養護老人ホームにおける褥瘡の現状と褥瘡予防ケアに関する研究—全国調査結果の概要—, 大阪市社会福祉研究, 22, 97-103
- ニケーション技術に対する学生の認識, 聖路加看護学会誌, 4(2), 26.
- 5) 笠原聡子, 大野ゆう子, 杉山裕美, 村田加奈子, 安間明日香, 藤田晴久, 長谷川敏彦, 大島明, 津熊秀明, 味木和喜子(2000). がん治療による生活障害をもつ患者数推計に関する研究. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 493.
- 6) 高田喜代子, 阿曾洋子, 田中結華, 板倉勲子 (2000). 体位変換時の患者・看護者双方の身体負荷に関する研究—仰臥位から左側臥位への5種類の交換方法の比較—. 第20回日本看護科学学会. 学術集会講演集, 54.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 小笠原知枝(2000). 調査研究. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp.57-74). 東京: 廣川書店.
- 2) 小笠原知枝(2000). 調査研究/研究例 臨床実習指導者の体験知に基づく指導行動. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp.195-208). 東京: 廣川書店.
- 3) 大野ゆう子(2000). 実験計画. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp.111-122). 東京: 廣川書店.
- 4) 武田雅俊, 篠崎和弘, 阿曾洋子 他 (2000). 痴呆性高齢者との共存社会. 日野原重明, 井村裕夫監修, 武田雅俊編, 看護のための最新医学講座第13巻「痴呆」(pp326-332). 中山書店.
- 5) 平河勝美(2000). 文献研究. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp177-193). 東京: 廣川書店.
- 6) 久米弥寿子(2000). コンピュータによる文献検索. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp91-109). 東京: 廣川書店.
- 7) 久米弥寿子: 訳(2000). がん疼痛管理の公的スタンダードの実施-プログラムモデルとその評価. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp271-292). 東京: 廣川書店.
- 8) 笠原聡子: 訳(2000). 看護診断の正確性に関する研究. 松木光子, 小笠原知枝編, これからの看護研究—基礎と応用—(pp.241-257). 東京: 廣川書店.
- 9) 山中登喜子, 安藤昌代, 馬場環, 久米弥寿子, 小笠原知枝 (2000). がん患者の家族が看護婦・医師に期待する終末期医療. 第31回日本看護学会抄録集—成人看護Ⅱ—, 84.
- 8) 伊部亜希, 玉井由理子, 阿曾洋子, 高田喜代子 (2000). エアマットレスの褥瘡予防効果の検討—エアマットレスと4種類のマットレスとの体圧・寝心地比較から—. 第31回日本看護学会抄録集—看護総合—, 103.
- 9) 古賀輝美, 阿曾洋子, 高田喜代子, 八田かずよ (2000). 病院における褥瘡の予防に対するドレッシング材貼用の実態. 第31回日本看護学会抄録集—成人看護Ⅱ—, 61.
- 10) 木村静, 阿曾洋子, 高田喜代子, 片山恵, 細見明代, 新田紀枝 (2000). ヘッドアップ角度の違いによる体圧への影響に関する研究. 第8回看護人間工学会.
- 11) 古賀輝美, 阿曾洋子, 高田喜代子 (2000). 褥瘡予防を目的としたドレッシング材の貼用実態. 日本褥瘡学会誌, 2(2), 189.
- 12) 中村裕美子, 阿曾洋子他(2000). 在宅要介護高齢者の介護者の主観的健康観に関わる要因, 第59回日本公衆衛生学会.
- 13) 板倉勲子, 阿曾洋子, 高田喜代子 (2000). 高齢者に対する臥床状態での排泄体位と便器の選択—身体負荷と感覚の比較を通して—. 第20回日本看護科学学会.
- 14) 石井豊恵, 大野ゆう子, 笠原聡子, 佐伯有香, 安藤邦子, 福岡富子(2000). 病棟業務実態調査に基づく看護必要度の検討 (1) 業務実態調査と看護度との比較検討. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 806.

3. 学会発表(抄録, Proceeding)

- 1) Ogasawara, C., Kume, Y. (2000). Clarification of Personal Teaching Theory in Japan. International Conference - Emerging Nursing Knowledge 2000.
- 2) Ohno, Y., Nakamura, T., Sugiyama, H., Oshima, A., Tsukuma, H., Ajiki, W. (2000). THE AGE-PERIOD-COHORT ANALYSIS OF JAPANESE CANCER INCIDENCES BASED ON THE OSAKA CANCER REGISTRY. The 22nd Annual Meeting of The International Association of Cancer Registries.
- 3) 大野ゆう子, 中村隆, 大島明, 津熊秀明, 味木和喜子(2000). ベイズ型 Age-Period-Cohort モデルによる肝がん罹患率の分析. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 179.
- 4) 久米弥寿子 (2000). ロールプレイング反復演習によるコミュ
- 15) 杉田塩, 大野ゆう子, 笠原聡子, 佐伯有香, 稲邑清也, 原内一, 飯沼正博, 国府裕子, 門田守人, 左近賢人, 安藤邦子, 藤本春美, 福岡富子, 森田輝代, 武田裕(2000). タイムスタディに基づく患者重症度別業務時間の分析. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 435.
- 16) 笹井靖子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 村田加奈子(2000). 急性心筋梗塞患者6ヶ月追跡調査に基づく食生活の変化とその要因に関する基礎的検討. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 219.
- 17) 山野園子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 阪倉直子(2000). 階段下降時の転倒防止を目的とした視点移動分析. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 263.

- 18) 村田加奈子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 辻本朋美(2000). 長期的保健医療提供システム設計のための医療需要度別患者数推計モデルの構築. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 294.
- 19) 北村有子, 大野ゆう子, 杉山裕美, 村田加奈子, 笠原聡子, 藤本春美, 東村昌代, 左近賢人, 柿川房子, 長谷川敏彦(2000). がん治療による生活障害をもつ患者における長期的療養支援パス作成に関する研究. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 492.
- 20) 杉山裕美, 大野ゆう子, 雑賀公美子, 黒川美由紀, 大島明, 津熊秀明, 味気和喜子(2000). 大阪府におけるがんの有病者数推計に関する研究. 日本公衆衛生雑誌, 47(11), 492.
- 21) 佐伯有香, 大野ゆう子, 平河勝美, 辻聡子, 藤本春美, 青木越子(2000). 患者情報に基づく看護提供時間推定可能性の検討—タイムスタディ情報より—. 日本看護研究学会雑誌, 23(3), 223.
- 22) 三浦早苗, 大野ゆう子(2000). 脳卒中電話相談における脳卒中患者, 家族, 一般市民の医療福祉情報ニーズと分析. 日本看護研究学会雑誌, 23(3), 349.
- 23) 辻本朋美, 三浦早苗, 中山博文, 大野ゆう子, 山口武典, 亀山正邦(2000). 一般市民の脳卒中に対する知識. 脳卒中, 22(1), 79.
- 24) Ishida, H., Tanaka, H., Kubota, H., Ashida, N., Ohno, Y., Kido, Y., Hasegawa, T., Komuro, K., Yamamoto, H., Moriguchi, N., Hamaguchi, H., Oda, M., Oishi, H.(2000). Information Feedback System for Discharged Patients. APAMI-MIC2000 IT & Health in the 21st Century.
- 25) Sugiyama, H., Ohno, Y., Murata, K., Oshima, A., Tsukuma, H., Ajiki, W., Matsumoto, K., Hasegawa, T. (2000). AN INVESTIGATION ON THE NUMBER OF PEOPLE WHO NEEDS CANCER MEDICATION AND/OR AFTER CARE SERVICES. The 22nd Annual Meeting of The International Association of Cancer Registries.
- 26) Saika, K., Ohno, Y., Sugiyama, H., Kurokawa, M., Yasuma, A., Kasahara, S., Oshima, A., Tsukuma, H., Ajiki, W.(2000). AN INVESTIGATION ON THE NUMBER OF PEOPLE WHO NEEDS CANCER MEDICATION AND/OR AFTER CARE SERVICES. The 22nd Annual Meeting of The International Association of Cancer Registries.
- 27) Iwase, A., Kitazawa, Y., Ohno, Y., Ansan, I., Chauhan, B. (2000). COMPARISON OF THE THRESHOLD VALUE OF SITA WITH THAT OF CONVENTIONAL PERIMETRY BY HUMPHREY FIELD ANALYZER IN GLAUCOMA PATIENTS. ARVO, 41(4), 466.
- 28) 中山博文, 辻本朋美, 三浦早苗, 大野ゆう子, 山口武典, 亀山正邦(2000). 一般市民の脳卒中に対するイメージ. 脳卒中, 22(1), 156.
- 29) 高橋育代, 久米弥寿子, 小笠原知枝 (2000). がん患者の苦悩に対する自助グループの情緒的サポート効果. 日本看護研究学会雑誌, 23(3), 181.
- 30) 長坂正子, 久米弥寿子, 小笠原知枝 (2000). 終末期がん患者に対する看護師の感情・行動傾向—一死のアウェアネス理論による分析. 第20回日本看護科学学会学術集会講演集, 65.

4. 研究助成

- 1) 阿曾洋子(代表), 吉田光雄, 平井富弘, 小笠原知枝, 大野ゆう子, 平河勝美, 久米弥寿子, 辻聡子, 高田喜代子, 田中結華 (2000). 基礎看護技術の理論化に関する研究—日常生活の援助技術に対する行動科学的分析—. 文部省科学研究費補助金, 基盤研究 (B).
- 2) 阿曾洋子(分担研究員), 高田喜代子, 上原ます子, 高沢洋子, 原田俊子, 藤原恵美子, 保田みつ子, 杉本信子(2000). 褥瘡治療・看護・介護・介護機器の総合評価ならびに褥瘡予防に関する研究. 厚生省長寿科学研究事業助成金.
- 3) 大野ゆう子(代表), 稲邑清也, 武田裕, 高橋隆, 井上俊彦, 門田守人, 木村通男, 山口直人, 小山和伸(2000). パス解析による病院運営合理化の研究—タイムスタディおよび治療法選択過程をもとにして—. 文部省科学研究費補助金, 基盤研究(B).
- 4) 久米弥寿子(2000). 人間関係技術におけるロールプレイ学習による態度育成. 文部省科学研究費補助金, 奨励研究 (A).
- 5) 高田喜代子(2000). 褥瘡およびその予防に対するドレッシング材使用の実態調査. 文部省科学研究費補助金, 奨励研究 (A).

母性・小児看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 平山宗宏, 鈴木敦子, 徳永雅子他(2000). 添付児童虐待の防止に"保健"はどう挑むのか. 公衆衛生情報, 903, 6-15.
- 2) 鈴木敦子(2000). 小児看護教育とインフォームドコンセント: 子どもの人格発達をふまえて. 小児看護, 23(13), 1727-1730.
- 3) 原田徳蔵(2000). 小児の下痢症における病因の変遷, 乳児難治性下痢症. 小児科, 41(1), 31-36.
- 4) 原田徳蔵(2000). 厚生科学研究: 小児薬物療法における医薬品の適正使用の問題点の把握及び対策に関する研究—Off-label 医薬品等に関する日本小児栄養消化器病学会の priority list. 平成11年度小児医薬品調査研究班による研究報告書, 190-191.
- 5) Shima, M., Tanae, A., Miki, K., Matsumoto, S., Nakajima, S., Harada, T., Shinagawa, T., Tanaka, T., Okada, S.(2000). Mechanism for the development of ovarian cysts in patients with congenital lipoid adrenal hyperplasia. European Journal of Endocrinology, 142, 274-279.

- 6) 高木洋治(2000).NutritionSupportに必要な基礎知識5. 在宅静脈・経腸栄養・治療学,34(2)150-153.
- 7) 高木洋治(2000). 銅の生理作用と栄養としての意義 JIPEN,22(3),155-160.
- 8) 高木洋治(2000). 市販輸液の種類と特性(1)末梢ルート輸液. 臨床外科,55(5),541-553.
- 9) 高木洋治(2000). 輸液剤からみた各種病態への適応. 中心静脈栄養輸液・ビタミン微量元素, 救急医学,24(8),943-952.
- 10) 高木洋治, 山東勤弥, 和佐勝史, 吉田洋, 岡田正(2000). 高カロリー輸液の処方と組み立て方. Medical Practice,17,147-157.
- 11) 吉田洋, 山東勤弥, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(2000). 在宅栄養管理. 臨床医,26(2),185-187.
- 12) Cui L, Takagi Y, Sando K, Wasa M & Okada A: Nitric Oxide synthase inhibitor attenuates inflammatory lesions in the skin of zinc-deficient rats. Nutrition,16,34-41,2000.
- 13) 榎木野裕美(2000). 医療者や親のかかわりと検査・処置を受けた子どもが抱いた思い. 小児看護,23(13),1758-1762.
- 14) 蝦名美智子, 鈴木敦子, 榎木野裕美 他(2000). 検査・手術を受ける子どもへのインフォームドコンセントー看護の実態とケアモデルの構築ー, 平成10~11年度文部省科学研究報告書.
- 15) 半田浩美, 鈴木敦子, 榎木野裕美 他(2000). 「子どもへ検査・処置について説明を行うこと」に関する文献検討, 神戸市看護大学紀要,4, 7-15.
- 16) 中村敦子, 鈴木敦子, 榎木野裕美 他(2000). 入院している子どもの遊びに対する看護者の認識ー看護経験年数による比較ー, 大阪大学看護学雑誌,6(1), 14-22.
- 17) 炭原加代, 宮前由喜子, 中嶋有加里, 田間恵實子, 山地建二(2000). 大学生の月経随伴症状と日常生活状況について. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 129-133.
- 18) 中嶋有加里, 染原和子, 谷口武, 村田雄二, 山地建二(2000). 妊婦の自動車運転に関する研究(第4報)ー運転時と助手席乗車時の子宮収縮自覚の比較ー. 大阪看護学雑誌,6(1), 24-33.
- 19) 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 染原和子, 谷口武, 山地建二, 村田雄二(2000). マタニティドライビングに対する意見ー質問紙の自由記載回答欄からー. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 24-30.
- 20) 宮前由喜子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 山地建二(2000). 産褥早期の母親に関する研究ー児を「抱く」ことに対する思いについてー. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 50-53.
- 21) 竹中佳織, 藤原靖子, 山田晶子, 水畑喜代子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 山地建二(2000). 妊娠線の予防に関する基礎的研究. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 19-23.
- 22) 平田直子, 木村佳奈, 斉藤由美, 谷口愛, 横山可奈, 小野塚大介, 田間恵實子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二(2000). 顔貌の出生直後の経時的変化. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 66-68.
- 23) 斉藤由美, 谷口愛, 横山可奈, 木村佳奈, 平田直子, 小野塚大介, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 山地建二, 西村明子(2000). 出生直後からの顔貌変化ーパターン化の試みー. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 69-71.
- 24) 木村佳奈, 平田直子, 斉藤由美, 谷口愛, 横山可奈, 小野塚大介, 田間恵實子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二, 西村明子, 三宅和美, 田村真美(2000). コンピュータを用いた育児支援の試み. 大阪母性衛生学会雑誌,36(1), 159-161.
- 25) 山地建二, 中嶋有加里, 炭原加代, 田間恵實子, 梶本勝, 冨田和彦, 谷口武, 橋上英子(2000). 妊婦に発症した外陰陰炎及び外陰そう痒症に対する弱酸性・低刺激性洗浄料セバメドRフェイス&ボディウォッシュの使用成績. 母性衛生,41(4), 517-525.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 南裕子, 野嶋佐由美, 鈴木敦子他(2000). 子どもに現れる自閉, 幼児虐待と家族への介入. ナースによる心のケアハンドブック(pp.). 照林社.
- 2) 原田徳蔵(2000). 在宅医療の実際:在宅中心静脈栄養. 千代豪昭, 船戸正久編. 小児の在宅生活支援のための医療的ケア・マニュアル(pp.23-26)(pp.69-71). 大阪府医師会勤務医部会, 小児の在宅医療システム検討委員会編
- 3) 高木洋治(2000). 微量元素欠乏症. 多賀須幸男, 尾形悦郎編, 今日の治療指針2000(pp594-595). 医学書院.
- 4) 榎木野裕美(2000). 活動意欲が低下している子どものケア. 小島操子, 時安真智子編, 看護のコツと落とし穴5. 小児看護(p65). 東京:中山書店.
- 5) 榎木野裕美(2000). 児童虐待を受けた子どもと親への援助. 小島操子, 時安真智子編, 看護のコツと落とし穴5. 小児看護(p114-115), 東京:中山書店.
- 6) 榎木野裕美(2000). 多動症候群・注意欠陥障害. 野嶋佐由美, 南裕子監修, ナースによる心のケアハンドブック(p130-131), 東京:照林社.
- 7) 中嶋有加里(2000). マタニティドライバーへのアドバイス. 小島操子, 末原紀美代編, 看護のコツと落とし穴4. 女性・母性看護(p8-9). 中山書店.
- 8) 竹村喬, 中嶋有加里, 山地建二, 小山田浩子(2000). 保健指導の意義と歴史的推移. 竹村秀雄編, 母親学級・面親学級指導マニュアル(p14-23). メディカ出版.

3. 学会発表(抄録, Proceeding)

- 1) 原田徳蔵(2000). シンポジウムー遺伝性疾患の患者を持った家

- 族への援助：Prader-Willi 症候群とその家族の援助．第24回日本臨床遺伝学会．
- 2) 原田徳蔵(2000)．小児の栄養管理—小児の生活習慣病を中心に．平成12年度大阪府栄養士生涯学習研修会．
- 3) 船橋舞，村上聖女，安住美知代，服部夏奈，原田徳蔵(2000)．プラダー・ウィリ症候群児の社会適応行動及び性格特性の実態と親の養育態度との関連について．第145回大阪小児科学会．
- 4) 服部夏奈，原田徳蔵，中谷信章，安住美知代，乾幸治，岡田伸太郎，加藤祥親，北田実男(2000)．小児期におけるβ3アドレナリン受容体遺伝子変異と肥満・血清脂質の関連について．第18回肥満・栄養障害研究会．
- 5) 安住美知代，原田徳蔵，塚本紘子，酒井規夫，乾幸治，岡田伸太郎(2000)．Methylation-PCR法によるPrader-Willi Syndromeの診断．第28回発育異常研究会．
- 6) 川井正信，虫明聡太郎，三善陽子，田尻仁，岡田伸太郎，川原央好，岡田正，原田徳蔵，藤川泰弘(2000)．著しい脊柱彎曲による十二指腸通過障害を伴う周期性嘔吐発作に対し外科的治療が奏功した1症例．第13回近畿小児科学会．
- 7) 島雅昭，田苗綾子，三木和典，勝又規行，中島滋郎，原田徳蔵，品川隆，田中敏章，岡田伸太郎(2000)．先天性リポイド過形成症における卵巣嚢腫形成メカニズムの検討．第103回日本小児科学会．
- 8) 虫明聡太郎，神尾範子，澤田敦，近藤宏樹，多田香苗，三善陽子，田尻仁，岡田伸太郎，原田徳蔵，佐々木隆士，長谷川利路，岡田正(2000)．先天性腸管微絨毛萎縮症に対する生体小腸移植(経過報告)．第27回日本小児栄養消化器病学会．
- 9) 徳光洋子，虫明聡太郎，近藤宏樹，田尻仁，岡田伸太郎，大植孝治，岡田正，原田徳蔵(2000)．膝頭細胞症の3症例の長期経過について．第27回日本小児栄養消化器病学会．
- 10) 那須野明香，田尻仁，澤田敦，近藤宏樹，三善陽子，虫明聡太郎，岡田伸太郎，曹英樹，中島清一，川原央好，原田徳蔵(2000)．著明な椎体の変形を伴う胃食道逆流症に対して腹腔鏡下噴門形成術が有効であった重度心身障害者の1例．第27回日本小児栄養消化器病学会．
- 11) 高木洋治(2000)．微量元素の重要性—味覚との関連—．大阪府栄養士生涯学習研究会，大阪．
- 12) 高木洋治(2000)．微量元素の重要性と栄養素的考察．三重県臨床栄養研究会特別研修会，津．
- 13) 高木洋治(2000)．第6次改訂日本人の栄養所要量—ミネラルについて—．集団給食施設等管内勤務栄養士研修会，高槻．
- 14) 高木洋治(2000)．微量元素について．奈良県栄養士生涯学習研修会，奈良．
- 15) 高木洋治，岡田正，(佐藤徳太郎，福島恒男，城谷典保，内山昌則，竹山廣光，嵩原裕夫，溝手博義)(2000)．在宅静脈栄養(HPN)登録状況—2000年実施調査より—．在宅静脈栄養(HPN)研究会(15)，千代田．
- 16) 高木洋治，岡田正，山東勤弥，和佐勝史，吉田洋(2000)．静脈・経腸栄養施行時の微量元素の重要性について．日本補完・代替医療学会(3)，東京．
- 17) 高木洋治(2000)．栄養学における微量元素の重要性．兵庫県栄養士生涯研修会，神戸．
- 18) 高木洋治(2000)．在宅静脈栄養(HPN)と在宅経腸栄養(HEN)の現状と問題点．日本栄養・食料学会近畿支部大会(39)，大阪．
- 19) 高木洋治(2000)．日本におけるHPNの現状と問題点．日本薬理学会学術大会(33)，大阪．
- 20) Hasegawa T, Sasaki T, Nakai H, Kimura T, Tazuke Y, Sano K, Wasa M, Takagi Y, Okada A, (Mushiaki S, Harada T, Dono K, Uemoto) (2000). Living-related small bowel transplantation for a 16-year-old patient with microvillus inclusion disease. *Asian Association of Pediatric Surgery*(17), 福岡．
- 21) 和佐勝史，(虫明聡太郎)，山東勤弥，高木洋治，岡田正(2000)．臨床経過の異なる2例の小腸 hypoganglionosis の経験．日本小児外科学会秋季シンポジウム(16)，港．
- 22) 吉田洋，曹英樹，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正(2000)．巾着縫合糸により中心静脈カテーテル(経内頸静脈挿入)破損をきたした1例．*近畿外科学会*(167)，大阪．
- 23) 吉田洋，曹英樹，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正，(飯野妙子)(2000)．ミード酸(5,8,11-eicosatrienoic acid)の実験的小腸潰瘍に対する効果の検討．*日本外科代謝栄養学会*(37)，大阪．
- 24) 吉田洋，曹英樹，山東勤弥，和佐勝史，長谷川利路，川原央好，鎌田振吉，高木洋治，岡田正(2000)．ブドウ糖菌性熱傷様皮膚症候群(ssss)を伴ったMRSAによる中心静脈カテーテル敗血症の1例．*近畿輸液・栄養研究会*(10)，守口．
- 25) 吉田洋，曹英樹，山東勤弥，和佐勝史，高木洋治，岡田正，(飯野妙子)(2000)．ω-9脂肪酸の炎症性腸疾患に対する治療効果．*日本臨床栄養学会*(22)，高知．
- 26) Soh H, Sando K, Wasa M, Yoshida H, Takagi Y, Okada A(2000). The comparison between Broviac catheter and subcutaneous implantable port in catheter-related complications in pediatric home parenteral nutrition patients. *Asian Association of Pediatric Surgeons* (17), 福岡．
- 27) 曹英樹，山東勤弥，吉田洋，上野孝，日吉富志帆，吉田純子，川原央好，和佐勝史，中島清一，高木洋治，岡田正(2000)．胃食道逆流症を伴う重症心身障害児手術症例に対する噴門形成術の栄養治療効果の評価．*日本外科代謝栄養学会*(37)，大阪．
- 28) 浅井俊哉，山東勤弥，元山武彦，曹英樹，吉田洋，和佐勝史，高木洋治，岡田正(2000)．在宅静脈栄養(Home Parenteral Nutrition:HPN)施行時のカテーテルトラブルの検討—完全皮下埋込式(subcutaneous infusion port:SIP)とBroviacカテーテルの比較—．*在宅静脈栄養(HPN)研究会*(15)，千代田．
- 29) 吉田純子，山東勤弥，日吉富志帆，元山武彦，浅井俊哉，曹英樹，吉田洋，和佐勝史，長谷川利路，高木洋治，(虫明聡太郎)，(飯野妙子)，岡田正(2000)．生体小腸移植後の栄養管理の一例(栄養士が関わった点)．*日本臨床栄養学会*(22)，高知．

- 30) 炭原加代, 久保井千春, 原口範子, 西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 山地建二 (2000). 妊婦の食生活状況調査. 第41回日本母性衛生学会.
- 31) 山口雅子, 西村明子, 中嶋有加里, 炭原加代, 山地建二 (2000). ベトナムのリプロダクティブヘルスと日本の援助. 第41回日本母性衛生学会.
- 32) 中嶋有加里, 染原和子, 谷口武, 西村明子, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二 (2000). 自動車運転が妊娠の Outcome に及ぼす影響 (第1報). 第41回日本母性衛生学会.
- 33) 西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二 (2000). 分娩時の Universal Precaution 実施状況と阻害因子についての検討. 第41回日本母性衛生学会.
- 24) 水畑喜代子, 西村明子, 中嶋有加里, 炭原加代, 山口雅子, 山地建二 (2000). 妊娠中の母体重変動 (増加量) にかかわる要因. 第41回日本母性衛生学会.
- 4) 神谷千鶴, 今井雪香, 江川隆子 (2000). 慢性血液透析患者の健康行動に対するセルフエフィカシーの特徴. 日本腎不全学会誌, 2(2), 48-52.
- 5) 城戸良弘, 小野博史, 北嶋洋幸, 矢野雅彦 (2000). 高齢者の術後管理上注意すべき合併症とその対策. OPE nursing, 15(10), 68-73
- 6) 城戸良弘 (2000). 医療側からみたインフォームド・コンセントの現状と今後の在り方. 日本の科学者, 35(9), 15 -19.
- 7) 荻野敏 (2000). アレルギー性鼻炎に対する補中益気湯の使用経験. 東洋医学, 28(2), 31-35.
- 8) 荻野敏, 高橋桜子, 川崙良明, 水津百合子, 入船盛弘 (2000). アスピリン喘息における誘発物質 (添加物) について. 耳鼻, 46(1), 31-36.
- 9) 荻野敏, 入船盛弘, 後藤啓恵 (2000). アスピリン喘息に伴う鼻茸に対するプラナルカスト (オノン) の効果. 日本アスピリン喘息研究会誌, 2(1), 133-138.
- 10) 荻野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治, 三宅陽子, 原田隆雄 (2000). アレルギー性鼻炎患者における QOL (第1報) - スギ花粉症飛散期の QOL - . 耳鼻, 46(2), 131-139.
- 11) 荻野敏, 高橋桜子 (2000). 添加物により症状の悪化をみたアスピリン喘息症例. アレルギーの臨床, 20(9), 749-752.
- 12) 荻野敏, 末吉朋美, 上田嗣代 (2000). 妊娠に伴う味覚変化の実態に関する研究. 看護技術, 46(11), 1230-1234.
- 13) 荻野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治, 三宅陽子, 原田隆雄 (2000). アレルギー性鼻炎患者における QOL (第2報) - スギ花粉症の QOL と背景因子 -. 耳鼻, 46(3), 223-229.
- 14) 荻野敏 (2000). アレルギー性鼻炎による嗅覚障害. JOURNAL, 16(5), 789-791.
- 15) 榎本雅夫, 藤村聡, 荻野敏 (2000). アレルギー性鼻炎における QOL の考え方と評価法. アレルギー科, 9(4), 370-374.
- 16) 荻野敏 (2000). 境界領域への取り組み - アスピリン喘息と鼻病変 -. 耳鼻, 103(7), 844-847.
- 17) 荻野敏 (2000). アスピリン喘息における鼻粘膜病態. アレルギー科, 10(2), 83-87.
- 18) 初田真知子, 呉勤, 巻田ふき, 板垣昭代, 奥宮暁子, 坂間伊津美, 小松美穂子 (2000). 超音波画像による成人女性の残尿測定法および体位依存性に関する研究. 母性衛生, 41(2), 299-30
- 19) 奥宮暁子, 宮腰由紀子 (2000). リハビリテーション看護の研究の動向と今後の課題. 看護研究, 33(4), 23-32.
- 20) 石鍋圭子, 野々村典子, 吉田真季, 奥宮暁子, 宮腰由紀子, 土屋陽子, 川波公香, 穂積恵子 (2000). リハビリテーション医療における職種間連携の実態と看護婦の役割. 日本リハビリテーション連携学会学会研究誌, 1(1), 141-149.
- 21) 野々村典子, 石鍋圭子, 宮腰由紀子, 奥宮暁子, 土屋陽子, 川波公香, 穂積恵子, 吉田真季 (2000). リハビリテーション看護領域におけるチーム活動の実態と理論モデル提案の可能性. 看護管理, 10(11), 920-926.

4. 研究助成

- 1) 蝦名美智子 (代表), 片田範子, 鈴木敦子, 筒井真奈美, 村田恵子, 榎木野裕美他 (2000). 検査・手術を受ける子どもへのインフォームドコンセント - 看護の実態とケアモデルの構築 -. 文部省科学研究費, 基盤(B).
- 2) 山地建二 (代表), 村田雄二, 大森正昭, 中嶋有加里 (2000). 妊婦の自動車運転の安全性に関する総合的研究. 文部省科学研究費, 萌芽的研究.
- 3) 高木洋治 (代表), 岡田正 (1999-2000). 実験的小腸移植におけるグラフト関連リンパ組織の解析 - 免疫抑制剤 FK50c / FTY720 の免疫抑制効果 -. 文部省科学研究費, 基盤研究(C).
- 4) 鈴木敦子 (代表), 榎木野裕美, 上野昌江 他. 養育不全の母親のタイプの解明と彼ら及びその子どもが必要としている質的ケアの探究. 文部省科学研究費, 基盤研究(B).
- 5) 榎木野裕美 (代表), 鈴木敦子, 上野昌江 他. 歪んだ親子関係の世代間伝達を克服するための要因の解明とその育児支援の探究. 文部省科学研究費, 基盤研究(C).
- 6) 蝦名美智子 (代表), 鈴木敦子, 榎木野裕美 他. 「検査・処置を受ける子どもへの説明と納得」に関するケアモデルの実践と評価. 文部省科学研究費, 基盤研究(B).
- 7) 中嶋有加里 (2000). 妊婦の自動車運転の安全性に関する基礎的研究. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).

成人・老人看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 江川隆子 (2000). 腎不全患者のケアに関する研究の動向と今後の課題新世紀へ向けて. 看護研究, 33(4), 15-22.
- 2) 江川隆子, 山本洋子, 藤原優子 (2000). 糖尿病患者の日常生活習慣は正の効果的指導法. Quality of Nursing, 6(8), 23-30.
- 3) 江川隆子 (2000). 腎不全の看護研究. 日本腎不全看護学会誌, 2(1), 12-15.

- 22) 吉野幸美, 奥宮暁子(2000). 看護職の専門的自律性と看護過程の実態についての共分散構造分析. 第31回日本看護学会論文集—看護総合—, 74-76.
- 23) Makimoto K, Oda H, Higuchi S(2000). Is heavy alcohol consumption an attributable risk factor for cancer-related deaths among Japanese men? . Alcoholism: Clinical Experimental Research ,24(3) ,382-385.
- 24) Makimoto K, Higuchi. S(2000). Changes in per capita alcohol consumption and suicide mortality in Japan, 1950-1990. Hokuriku J Public Health 26;63-67.
- 25) 高崎郁江, 牧本清子, 林正男, 飯田芳枝(2000). 神経芽細胞腫スクリーニングに対する保護者の意識と未受験者の特性. 北陸公衆衛生誌, 27(1), 26-30.
- 26) 浅草喜久治, 晋川朋子, 仲井美和, 塩見一成, 刀谷峰子, 寺師栄, 高橋章子, 河村葉子(2000). パーカッションとスキージングの効果の比較検討. 日本救急看護学会雑誌.
- 27) 小関真紀, 升谷英子, 鍋谷佳子, 青木越子, 藤本春美, 城戸良弘 (2000). 手術を体験する食道癌患者のコーピングに関する研究, 一術前・退院前の検討一. 日本看護研究学会雑誌 23(3), 183.
- 38) 上原淳子, 池田明子 (2000). 看護者にとって対応困難な患者行動の理解に関する一考察. 大阪大学看護学雑誌, 6(1), 34-41.
- 2. 単行本(著書, 翻訳本)**
- 1) 江川隆子, 清水久美子, 田島悦子他(2000). 看護データベース—作成過程と臨床への応用—. 廣川書店.
- 2) 江川隆子, 清水久美子, 田島悦子他(2000). 看護データベース—作成過程と臨床への応用—第2版. 廣川書店.
- 3) 坂田三允, 奥宮暁子, 江川文誠, 後藤田倫子, 恵崎順子(2000). 第2章生活を支える看護の技術, 2. 生活調整をする人の看護. 障害施設職員通信教育, 8, 19-37. 知的障害者福祉協会.
- 4) 坂田三允, 奥宮暁子, 江川文誠, 後藤田倫子, 恵崎順子(2000). 第2章生活を支える看護の技術, 3. 生活の再構築を必要とする人たちの看護. 知的障害施設職員通信教育, 8, 38-48. 知的障害者福祉協会.
- 5) 奥宮暁子, 後閑容子, 坂田三允:編(2000). シリーズ細心在宅看護技術2. 日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア. 中央法規出版.
- 6) 日野原重明監修, 武田雅俊編集, 國生拓子: 共著 (2000). 看護のための最新医学講座第13巻, 痴呆, 精神科高齢者病棟でのケア (pp.262-268). 中山書店.
- 3. 学会発表(抄録, Proceeding)**
- 1) Ogino, S., Irifune, M., Takeda, M., Baba, K., Fukuroku, K., Miyake, Y., Harada, T. (2000). QOL in Japanese-cedar pollinosis using SF-36 questionnaire. 17th International Congress of Allergy and Clinical Immunology.
- 2) 荻野敏 (2000). 花粉症の診断と治療. 第11回岡山耳鼻咽喉科感染症免疫研究会.
- 3) 荻野敏 (2000). アレルギー疾患治療のポイント. 第6回アレルギー週間学術講演会.
- 4) 荻野敏 (2000). QOLから見たアレルギー性鼻炎. 第1回中四国耳鼻咽喉科アレルギー疾患研究会.
- 5) 荻野敏 (2000). 耳鼻咽喉科からみたアスピリン喘息. 第20回北海道耳鼻咽喉科免疫アレルギー談話会.
- 6) 荻野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治 (2000). スギ花粉症におけるQOL (第3法): QOLに影響を与える背景因子 (SF-36を用いて). 第12回日本アレルギー学会春季臨床大会.
- 7) 荻野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治 (2000). スギ花粉症におけるQOL: QOLに影響を与える背景因子 (SF-36を用いて). 第101回日本耳鼻咽喉科学会総会.
- 8) 荻野敏, 入船盛弘, 竹田真理子 (2000). 通年性アレルギー性鼻炎におけるQOL. 第39回日本鼻科学会学術講演会.
- 9) 野々村典子, 土屋陽子, 宮腰由紀子, 奥宮暁子, 小林幸子, 穂積恵子, 石鍋圭子, 山田京子, 吉田真季, 川波公香, 石川ふみよ, 斎藤みちよ(2000). リハビリテーション看護の役割・機能についての認識—一般看護婦の全国調査から—. 第26回日本看護研究学会学術集会.
- 10) 吉野幸美, 奥宮暁子(2000). 看護職の専門的自律性と看護過程の実態についての共分散構造分析—看護総合—第31回日本看護学会, 奈良.
- 11) 石川ふみよ, 奥宮暁子, 坪井良子(2000). 短期大学教員の看護教育制度に対する認識—自由記載の分析から—. 第10回看護学教育学会学術集会, 神戸.
- 12) 野々村典子, 土屋陽子, 宮腰由紀子, 奥宮暁子, 小林幸子, 穂積恵子, 石鍋圭子, 山田京子, 吉田真季, 川波公香, 石川ふみよ, 斎藤みちよ(2000). リハビリテーション看護領域の卒後研修内容の検討—一般看護婦の全国調査から—. 第4回茨城県総合リハビリテーションケア学会学術集会.
- 13) 野々村典子, 土屋陽子, 宮腰由紀子, 奥宮暁子, 小林幸子, 穂積恵子, 石鍋圭子, 山田京子, 吉田真季, 川波公香, 石川ふみよ, 斎藤みちよ(2000). リハビリテーション領域における看護の役割・機能・職種別全国調査—リハビリテーション・ケア合同研究大会, 岩手.
- 14) 服部希恵, 北島謙吾, 藤本幸三, 大谷恵, 森千鶴, 國生拓子, 角屋厚子, 小瀬古隆, 森明美, 松井浄, 川村女里子, 巽章, 楠本賢一, ロバート・アンダース, 川野雅資 (2000). 三重県立志摩病院に入院中の痴呆状態にあると考えられる精神障害者のQOLに関する研究. 社団法人日本精神科看護技術協会. 三重県支部看護研究会誌, 27-29.
- 15) 三島明子, 今井雪香, 江川隆子(2000). 慢性血液透析患者のセルフエフィカシーと自己管理の関係. 第3回腎不全看護学

会。

- 16) 神谷千鶴, 三島明子, 今井雪香, 江川隆子(2000). 慢性血液透析患者の健康行動に対するセルフエフィカシーの特徴. 第3回腎不全看護学会.
- 17) 今井雪香, 江川隆子(2000). 看護大学生の予防的保健行動の特性—看護大学生と一般大学生の比較— . 第20回日本看護科学学会学術集会.
- 19) 櫻井尚子, 本間紀子, 井上智恵, 溝口麻里, 山倉左起子, 山崎ともえ, 林真理, 佐々木三男 (2000) . 看護婦の二交代勤務の睡眠覚醒リズム . 日本睡眠学会 第25回定期学術集会.
- 20) 河原由香, 塩見一成, 太田純子, 日谷峰子, 寺師栄, 高橋章子, 河村葉子(2000). 閉鎖式吸引回路の有用性の検討 その1. 第2回日本救急看護学会.
- 21) 仲井美和, 浅草喜久治, 塩見一成, 太田純子, 寺師栄, 高橋章子, 河村葉子(2000). スクイーミングが循環に与える影響の考察. 第2回日本救急看護学会.

4. 研究助成

- 1) 小松美穂子, 奥宮暁子, 巻田ふき, 板垣昭代, 坂間伊津美他(2000). 排尿の体位依存性に関する研究—超音波画像診断法を用いて—平成9年度～平成11年度科学研究費補助金基盤(B)(2).
- 2) 野々村典子, 奥宮暁子, 宮腰由紀子, 他5名(2000). リハビリテーション看護の専門性確立のための看護援助分析. 平成11年度厚生科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業).
- 3) 國生拓子 (2000). 精神科入院患者のQOLおよびケアの満足度調査に基づくクリティカル・パスの開発. 文部省科学研究費, 奨励研究A.

地域看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 早川和生(2000). 介護保険で日本の何を変えるのか. ナーシング・トゥデイ, 15(3), 34-35.
- 2) Kusano E., Yorifuji S., Okuno M., Nakanishi F., Imaoka H., Matsuo Y., Abe K., Hayakawa K.(2000). Skin hemodynamics during change from supine to lateral position. *Journal of NeuroscienceNursing*, 32(3), 164-168.
- 3) 早川和生, 筒井真優美, 羽山由美子(2000). 看護学における先端科学とは: ナーシングサイエンス COEの形成に向けて. *看護研究*, 33(1), 3-13.
- 4) 早川和生(2000). 看護学における先端科学の推進. *看護研究*, 33(1), 2.
- 5) 早川和生, 樋口康子(2000). 看護学の体系化と大学院の役割: 看護学を追求して. *Quality Nursing*, 6(3), 4-9.
- 6) 早川和生(2000). 老化現象の双生児研究. 日本双生児研究会ニュースレター, 第27号, 18-19.

- 7) 前原澄子, 河原宣子, 菅田勝也, 田村やよい, 早川和生, 正木治恵(2000). 学会の将来展望を語る. *日本看護科学会誌*, 20(3), 30-39.
- 8) 早川和生(2000). 双生児 Twin-talk 調査結果報告について. 東京: ツインマザーズクラブ会報. Vol166, 15-19.
- 9) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000). Sympathetic activity and body mass index contribute to blood pressure levels. *Hypertens Res*. 2000,23,303-310.
- 10) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000). Weight gain-induced blood pressure elevation. *Hypertension*. 2000,35,1135-1140.
- 11) Muratani H, Kimura Y, Fukiyama K, Kawano Y, Fujii J, Abe K, Kuwajima I, Ishii M, Shiomi T, Mikami H, Ibayashi S and Omae (2000). Control of blood pressure and lifestyle-related risk factors in elderly Japanese hypertensive subjects. *Hypertens Res* 2000; 23,441-449.
- 12) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck MI(2000). Weight reduction and pharmacological treatments in obese hypertensives. *Am J Hypertens*. (in press).
- 13) 足立登志子, 金谷絵美, 藤田真実, 伊藤美樹子, 千代豪昭, 三上洋(2000). 小児在宅高度医療を行う家族の主観的 Well-Being と家族関係に関する研究. *日本地域看護学会雑誌*, 2000(1), 61-68.
- 14) 藤田真実, 伊藤美樹子, 三上洋, 有馬和代, 志村雅彦: 閉じこもりがち高齢者を支える住民の力量形成の過程と大学研究者の役割—現場保健婦との実践研究を通して—, *日本地域看護学会誌* 2000,(1), 69-75.
- 15) 三上洋 (2000). 高血圧症治療とQOL. *日本臨床* 58 (2000年臨時増刊号, 「高血圧(下巻)」), 36-39.
- 16) 三上洋(2000). 実践的な降圧療法と患者指導 ACE阻害薬と利尿薬併用. *Modern Physician* 20(3), 357-359.
- 17) 三上洋 (2000). 心拍数と心血管病リスク. *血圧* 7(4), 400-401.
- 18) 三上洋 (2000). 絶望感と高血圧発症. *血圧* 7(6), 614-615.
- 19) 三上洋 (2000). 成人病の治療—QOLを中心に—高血圧 *Medicament News*, 平成12年8月15日号.
- 20) 白井文恵, 川口真紀子, 土肥義胤, 田中春美(2000): 母乳の保存温度が母乳中に混入した細菌の生残に与える影響. *母性衛生*, 42 (1), 印刷中.
- 21) 白井文恵, 土肥義胤(2000): 手指表皮上の常在菌に対する消毒薬「ハイエスト」の効果. *新薬と臨床* 49 (10), 1062-1066.

単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 早川和生他(2000). ふたごの育児: ふたごみつごの赤ちゃんを育てるために. 厚生省児童家庭局母子保健課.
- 2) 早川和生他(2000). 小さな赤ちゃん: 小さく生まれた赤ちゃんを育てるために. 厚生省児童家庭局母子保健課.
- 3) 稲本一夫, 早川和生(2000). 医療科学第2版. 医歯薬出版.
- 4) 早川和生(2000). 多胎家庭が利用可能な社会保障制度. 横山美江編. 双子・三つ子・四つ子・五つ子の育児指導の手びき

- (143-145). 医歯薬出版.
- 5) 早川和生(2000). 双子の個別化を促すための：両親のためのガイドライン. 吉井一美編. ツインスター(p.19).
 - 6) 早川和生監修(2000). 介護の現場から：悩みの糸口を求めて (p.3). 一橋出版.
 - 7) 早川和生(2000). 論文構成とまとめ方. 松木光子, 小笠原知編. これからの看護研究：基礎と応用(149-158). 広川書店.
 - 8) 早川和生監修(2000). 介護福祉士国家試験：14科目完全対策新訂版. 福祉教育研究指導会編著. 一橋出版.
 - 9) 三上洋(2000). β 遮断薬のQOLへの影響, 萩原, 築山, 横山編, β 遮断薬のすべて(pp.270-277). 東京:先端医学社.
 - 10) 三上洋(2000). アンジオテンシンII受容体拮抗薬とQOL, 萩原, 猿田, 永井, 日和田, 藤田編, 『心血管系疾患とレニン・アンジオテンシン系』—新世代のアンジオテンシンII受容体拮抗薬による検証— (pp.232-239). 東京:先端医学社.
 - 11) 三上洋(2000). アンジオテンシンII受容体拮抗薬とQOL, 萩原, 菊池, 猿田, 島本, 日和田編, 『A II受容体拮抗薬のすべて (第2版)』(pp.307-312). 東京:先端医学社.
 - 12) 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 木村知香子(2000). 9章ストレス対処能力SOCと生きがい, 山崎喜比古, 瀬戸信一郎編, HIV感染被害者の生存・生活・人生-当事者参加型リサーチから- (p.120-133). 東京:有信堂高文社.
- ### 3. 学会発表(抄録, Proceeding)
- 1) 早川和生, 他(2000). 新たな世界を切り拓く看護職, 様々な分野で活躍する看護職の実践報告, 第26回日本看護研究学会, 千葉.
 - 2) 小田桂子, 坪井千賀, 早川和生(2000). 乳幼児期における多胎児の言語発達の遅れとTwin-talk現象, 第3回日本地域看護学会, 東京.
 - 3) 草野恵美子, 依藤史郎, 早川和生(2000). 圧迫負荷時における皮膚酸素量動態と自律神経との関連, 第26回日本看護研究学会, 千葉.
 - 4) 林美貴子, 浦佳代, 尾ノ井美由紀, 加藤憲司, 曾木茜, 本多智佳, 早川和生(2000). 大阪府茨木市における住民健診結果データの経年変化の分析, 第59回日本公衆衛生学会, 群馬.
 - 5) 本多智佳, 早川和生(2000). 介護度に関連したQOLの計量的研究～第1報～, 第59回日本公衆衛生学会, 群馬.
 - 6) 曾木茜, 早川和生(2000). ライフスタイルと免疫機能の双生児同胞間比較の研究, 第59回日本公衆衛生学会, 群馬.
 - 7) 早川和生, 加藤セツ(2000). 多胎児を生み育てる家族への保健サービスを考える集会. 第59回日本公衆衛生学会自由集会.
 - 8) Masuo K, Mikami H, Kawaguchi H, Ogihara T, Tuck ML(2000). Genetic influences of obesity and blood pressure levels. 49th Annual Scientific Session, American College of Cardiology, Anaheim, CA, USA.
 - 9) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: A family history of obesity, a family history of hypertension and blood pressure levels. The Fifteenth Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, New York, NY, USA.
 - 10) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Different mechanisms in weight loss-induced BP fall between short-term obesity and long-term obesity. Tenth European Meeting on Hypertension, Gothenburg, Sweden.
 - 11) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Weight gain induced BP elevation and weight reduction induced BP reduction. Tenth European Meeting on Hypertension, Gothenburg, Sweden.
 - 12) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Family history of obesity and family history of hypertension contribute to BP elevation in a longitudinal study of 2 years. Tenth European Meeting on Hypertension, Gothenburg, Sweden.
 - 13) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Effect of weight reduction, ACE inhibitor and angiotensin II antagonist on obesity hypertension. 18th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Chicago, IL, USA.
 - 14) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Family history of obesity and hypertension contribute to sympathetic activity in young men. 18th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Chicago, IL, USA.
 - 15) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Plasma insulin level modulates plasma leptin level, but does not BP level in diabetes. 18th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension, Chicago, IL, USA.
 - 16) Masuo K, Mikami H, Ogihara T, Tuck ML(2000).: Differences in mechanisms between weight loss sensitive and insensitive BP reduction in obese subjects. 54th Annual Fall Conference and Scientific sessions of the Council for High Blood Pressure Research, October 24-27, Washington D.C. USA.
 - 17) Masuo K, Mikami H, Ogihara T(2000).: Mechanisms in obesity-related hypertension in humans. Jackson Cardiovascular Renal Meeting, Jackson, MS, USA, (The New Investigator Awards).
 - 18) Masuo K, Mikami H, Kawaguchi, Tuck ML(2000). Sympathetic Overactivity in Familial Obesity. The Scientific Sessions 2000, American Heart Association, New Orleans LA, USA.
 - 19) 舩尾和子, 三上洋, 萩原俊男(2000). 体重減少は肥満高血圧患者の薬物治療に優先する. 第64回日本循環器学術集会, 大阪.
 - 20) 三上洋(2000). 教育講演「老年者高血圧の特徴と治療」. 第42回日本老年医学会学術集会, 大阪.
 - 21) 三上洋(2000). 高血圧の発症をめぐる諸因子の経時的変化. 第19回高血圧シンポジウム—基礎から臨床まで—, 大阪.
 - 22) 舩尾和子, 三上洋, 萩原俊男(2000). 肥満高血圧患者の体重減量による降圧. 日本高血圧学会, 福岡.
 - 23) 舩尾和子, 三上洋, 萩原俊男(2000). 交感神経活動性の亢進は肥満の発症因子の一つである. 日本心血管内分分泌代謝学会総会, 大阪.

- 24) 舩尾和子, 三上洋, 荻原俊男(2000). 体重減量プログラム非成功者の降圧機序. 血圧管理研究会, 京都.
- 25) 小林京子, 古屋由美子, 吉田綾, 伊藤美樹子, 三上洋(2000). 疾患・障害児童の学校行事参加にみる保護者・学校・医療の連携. 第3回日本地域看護学会, 東京.
- 26) 吉田綾, 古屋由美子, 小林京子, 伊藤美樹子, 三上洋(2000). 病児・障害児の主介護者の蓄積疲労度について—主介助者の受容と介助状況との関連の検討—. 第3回日本地域看護学会, 東京.
- 27) 伊藤美樹子, 榑原一恵, 熊谷香代子, 熊谷たまき, 山崎喜比古, 松友庸子, 栢川文子, 山田寿子: 点頭てんかん児の療育環境の実状(1) —20余年前との比較から—, 第59回日本公衆衛生学会総会, 群馬.
- 28) 榑原一恵, 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 熊谷香代子, 熊谷たまき, 松友庸子, 栢川文子, 山田寿子: 点頭てんかん児の療育環境の実状(2) —20余年前との比較から—, 第59回日本公衆衛生学会総会, 群馬.
- 29) 小林京子, 古屋由美子, 吉田綾, 伊藤美樹子, 三上洋(2000). 疾患・障害児童の保護者と学校・医療との連携, 第59回日本公衆衛生学会総会, 群馬.
- 30) 白井香苗, 三上洋, 伊藤美樹子(2000). 地域在住高齢者のソーシャルサポートの授受と主観的 well-being との関連の検討, 第59回日本公衆衛生学会総会, 群馬.
- 31) 小林京子, 伊藤美樹子, 三上洋(2000). 介護保険下の在宅サービス利用に対する影響因子の検討, 第4回高齢者介護・看護・医療フォーラム, 大阪.
- 32) 白井文恵, 川口真紀子, 土肥義胤(2000). 末梢血好中球の性周期に伴う活性化について, 日本細菌学雑誌 55(2), 206.
- 33) 土井修平, 白井文恵, 土肥義胤(2000). 非食細胞に於ける腸球菌感染の制御, 日本細菌学雑誌 55(2), 300.
- 34) 川口真紀子, 白井文恵, 江部知子, 土肥義胤(2000). 腎透析患者の易感染性の原因の追究-第2報-, 日本看護研究学会雑誌 23(3), 100.
- 35) 白井文恵, 川口真紀子, 土肥義胤(2000). 排卵期における末梢白血球の殺菌能力の上昇について, 日本看護研究学会雑誌 23(3), 260.
- 36) Shirai F., and Dohi Y (2000). Peripheral Polymorphonuclear leukocytes at ovulatory period are in an activated state. The 5th KO-REA-JAPAN international symposium on microbiology, 60.
- 37) 江部知子, 白井文恵, 川口真紀子, 土肥義胤(2000). 血液透析患者の易感染性の原因について-血清成分中の低分子物質による好中球機能阻害-, 第53回日本細菌学会関西支部総会, 32.
- 38) 土肥義胤, 白井文恵(2000). 末梢血好中球は、排卵期に活性化状態にある, 全国乳酸菌研究会, 478-484.

4. 研究助成

- 1) 早川和生 (代表): 低出生体重児・多胎・双胎の妊娠・出

産・育児の支援に関する研究. 平成12年度厚生省厚生科学研究費心身障害研究.

- 2) 早川和生 (代表): 双子老人2,500組の比較からみた加齢現象に関する生活環境要因の研究. 平成12年度科学研究費補助金, 基盤 (B) .
- 3) 早川和生 (代表): 乳幼児期における Twin-talk (宇宙語) 現象の発生予防とファミリーケアの研究. 平成12年度科学研究費補助金, 萌芽的研究.
- 4) 早川和生 (代表): 双子老人2,500組の比較からみた生活行動・ライフスタイルが精神老化に關与する影響の研究. ユニバーシティー研究助成.
- 5) 土肥義胤(2000). 抗結核キラー-Tリンパ球とリコンビナント BCG-DNA ワクチンの開発による新しい予防・診断・治療法. 平成12年度厚生科学研究費補助金(新興・再興感染症) 事業研究.
- 6) 土肥義胤(2000). 易感染宿主の末梢血単球の感染防御能低下について. 平成12年度腸管微生物研究会助成金.
- 7) 白井文恵(2000). 糖尿病患者及び腎不全患者の易感染状態の原因追究と感染予防対策の検討. 文部省科学研究費補助金, 奨励研究(A).

病院看護部

誌上発表

- 1) 京力深穂, 柿添真由美(2000). 肝移植を受ける患者の看護-生体部分肝移植後の患児の看護-. 臨床看護, 12.
- 2) 神谷千鶴(2000). 慢性血液透析患者の健康行動に対するセルフエフィカシーの特徴. 日本腎不全看護学会誌, 2, 48-52.
- 3) 国吉浩美(2000). 症例研究「腎提供後、残存腎に悪性腫瘍が発生した患者とのかかわり」. メディカ出版・ウロナーシング, 5 (10).
- 4) 佐伯有香, 大野ゆう子, 平河勝美, 辻 聡子, 藤本春美, 青木越子(2000). 患者情報に基づく看護提供時間推定可能性の検討. 日本看護研究学会雑誌, 1(23), No.3.
- 5) 八田かずよ, 阿曾洋子, 高田喜代子, 上原ます子, 杉本信子(2000). 病棟における褥創の保有状況と実施ケアからみた看護体系の問題と課題. 第30回日本看護学会論文集, 看護管理, 66-68.
- 6) 小濱敬子, 井上有美子(2000). 精神分裂病患者へVASを用いた病感調査を試みて. 日本精神科看護精神科救急・急性期看護, 84-87.
- 7) 水谷綾子(2000). 心臓移植第1例を経験して. オペナーシング, 2, 62-69.
- 8) 内川美歌, 杉本万代, 藤本春美, 福田佐和子, 田口恵子, 渋谷絵津子, 水谷綾子(2000). 腹腔鏡下胃切除術の看護_症例を通して_. オペナーシング, 15(6).
- 9) 塚田なおみ(2000). ガスタンボナーデ施行時の看護, 小児の眼科手術看護. 眼科手術看護マニュアル オペナーシング, 秋委

増刊号,289-293,268-280.

- 10) 山中登紀子、馬場 環、安藤昌代、久米弥寿子、小笠原知枝(2000). がん患者の家族が看護婦・医師に期待する終末期医療・第31回日本看護学会抄録集 成人看護Ⅱ。
- 11) 北村有子、大野ゆう子、杉山裕美、村田加奈子、笠原聡子、藤本春美、東村昌代、左近賢人、柿川房子、長谷川敏彦(2000). がん治療における生活障害を持つ患者における長期的療養支援パス作成に関する研究・第59回日本公衆衛生学会総会抄録集、日本公衆衛生雑誌,47(11),492.
- 12) 藤本法子、長野和美、後藤美紀、藪下泰世、島津岳士(2000). 緑茶を用いた鼻腔内清拭によるMRSA感染防効果についての検討・第54回日本救急医学会近畿地方会。

学会発表

- 1) 山本裕子、植菌法子、團寛子(2000). 創外固定自己管理へ向けての指導について・第13回日本創外固定・骨延長学会。
- 2) 井上有美子、小濱敬子(2000). 分裂病患者の看護へ10cm テープを用いた病感調査の導入を試みて・第31回日本看護学会成人看護Ⅱ。
- 3) 山中登紀子、安藤昌代、馬場環、久米弥寿子、小笠原知枝(2000). がん患者の家族が看護婦・医師に期待する終末期医療・第31回日本看護学会成人看護Ⅱ。
- 4) 古庄礼子、河野総江、南正人、妙中信之(2000). 生体肺移植後のICUでの看護-呼吸器感染対策と精神面の援助-・第22回日本呼吸療法医学会学術総会。
- 5) 小濱敬子、井上有美子、西田幸子、池永順子、小山田まり子、畑沢和子(2000). 精神分裂病患者へVASを用いた病感調査を試みて・平成12年度日本精神看護学会精神科救急・急性期看護。
- 6) 小濱敬子、井上有美子(2000). 分裂病患者の看護へ10cm テープを用いた病感調査の導入・第17回信貴山シンポジウム。
- 7) 岩田敏代、田中順子、重松弘子、鍛冶葉子、佐藤亜佳子、小川睦、松山晶子、中村香月、中川智子、中村弘子、西牧明日香、荒田さおり、米原麗子、山崎肇、黒川信夫、笠原彰紀、吉矢生人(2000). 大阪大学医学部附属病院における直接閲覧を伴うモニタリング実施状況・第21回日本臨床薬理学会。
- 8) 柳川千里、越村利恵、八頭司直美(2000). 拡張型心筋患者の自己管理行動に影響を及ぼす因子-カルテ、看護記録よりの分析を試みて-・第48回日本心臓病学会学術集会。
- 9) 田口恵子、渋谷絵津子、水谷綾子、野口悟司、中島清一、高階雅紀、中田精三(2000). 小児内視鏡手術における手術機器・器具の管理;手術部ナースの立場から・第4回小児内視鏡手術研究会。
- 10) 中田精三、梅下浩司、上山博史、高階雅紀、船越文男、野口悟司、水谷綾子、三村美智子、村田雄二(2000). 手術に使用される未請求ディスプレイ器材・第22回手術医学会総会。
- 11) 嶋田成美、小林和子、三村美智子、水谷綾子、中田精三、村田雄二(2000). 一般社会における医療への関心の動向-ホーム ページ上でのアンケート調査を試みて・第22回日本手術医学会総会。
- 12) 高階雅紀、上山博史、梅下浩司、中田精三、村田雄二、三村美智子、水谷綾子(2000). 定期的点数化法による外注業務の品質管理の試み・第22回日本手術医学会総会。
- 13) 萩原さがみ、福岡富子、本井文子、内藤英子、埴岡佳子、今井美貴、小川馨、有田聡子、小川美穂(2000). 心臓移植、肺移植、腎同時移植、小腸移植における看護婦の役割・第36回日本移植学会総会。
- 14) 橋本啓子、久米木章子、京力深穂、中島清一、曹英樹、和佐勝史、岡田正(2000). 腹腔鏡下手術を受ける患児と親に対する術前・術後看護-病棟看護婦の立場から-・第20回小児外科手術手技研究会。
- 15) 亀田真美、藤田香奈子、玉島久子、本井文子、萩原さがみ(2000). 骨髄移植前後の下肢の筋力の変化について・第23回日本造血細胞移植学会総会。
- 16) 浦田桜、長谷宏美、中山正俊、藪下泰世(2000). 初療時の感染症対策における看護婦の意識の比較-検討-当センターとノースカロライナ大学救命救急センターとの意識調査を行って-・第2回日本救急看護学会学術集会。
- 17) 岡本典子、中山正俊、藪下泰世、京力深穂(2000). 小児の内服薬誤注入事故防止のための経腸専用ルートの有効性・第31回日本看護学会小児看護。
- 18) 石井豊恵、大野ゆう子、笠原聡子、佐伯有香、安藤邦子、福岡富子(2000). 看護ケア提供量把握の為の業務時間分析・第1回看護情報研究会。
- 19) 佐伯有香、大野ゆう子、平河勝美、笠原聡子、藤本春美、安藤邦子、森田輝子、福岡富子、門田守人、左近賢人(2000). 患者情報とタイムスタディデータに基づく患者情報提供時間推定の試み・第26回日本看護研究会学術集会。
- 20) 神谷千鶴(2000). 慢性血液透析患者の健康行動に対するセルフエフィカシーと患者属性との関連・第3回日本腎不全看護学会学術集会。
- 21) 井上有美子、小濱敬子(2000). 精神分裂病患者の病感の経時的変化に関する研究-ビジュアル・アナログ・スケールによる調査とセルフケアレベルの検討を通して-・第31回日本看護学会論文集、成人看護Ⅱ精神科救急・急性期看護,P84-87.
- 22) 古賀輝美、阿曾洋子、高田喜代子、八田かずよ(2000). 病院における褥創の予防に対するドレッシング材貼用の実態・第31回日本看護学会 成人看護Ⅱ。
- 23) 北村有子、大野ゆう子、杉山裕美、村田加奈子、笠原聡子、藤本春美、東村昌代、左近賢人、柿川房子、長谷川敏彦(2000). がん治療における生活障害を持つ患者における長期的療養支援パス作成に関する研究・第59回公衆衛生学会。
- 24) 石川典子、大河原幸、田村利枝、鹿島泰子、藪下泰世(2000). 脳損傷患者の家族への退院指導マニュアルを使用して・第82回近畿救急医学研究会。
- 25) 中山正俊、浦田桜、長谷宏美、藪下泰世、中森靖(2000). 経腸

用薬剤の静脈内誤投与防止策の検討.第82回近畿救急医学研究学会.

命救急センター).

19) 永松彩子, 坂根由香里, 西村さやか (2000.12) 尺度を用いた疼痛の客観的評価を試みて(放射線科).

院内看護研究発表

- 1) 馬場香織, 吉満千代子, 古庄礼子, 横田知子 (2000.1) スタッフの手洗いの認識と現状(集中治療部).
- 2) 堀井亜希子, 山根洋子, 佐藤美代子 (2000.1) 乾癬患者会における自己効力の調査(皮膚科・内科共通).
- 3) 杉本佳子, 森山美和, 清水美穂, 馬場由紀, 斎藤文子 (2000.2) ウォシュレットトイレ使用による外陰部保清の安全性の検討(産婦人科).
- 4) 前川哲 (2000.2) ずれない氷枕カバーの開発(医療材料・看護用具検討委員会).
- 5) 谷浦葉子, 越村利恵 (2000.2) 臨床看護研究に対する意識調査(教育委員会).
- 6) 冠木雅子, 山本智美 (2000.6) 放射線部での緊急体制の検討-医師・技師・看護婦による合同シミュレーション実施を試みて-(放射線部).
- 7) 山見和美, 橋村友子, 金京子 (2000.6) 硝子体手術を受けた患者に対する音楽のリラクゼーション効果の検討(眼科).
- 8) 高取瑞絵, 藤木里枝, 荒木啓子, 桐原亜由子, 波下和子 (2000.7) 汚物室の臭いに対する消臭剤の除臭効果の比較検討(外科共通).
- 9) 坂東律子, 米澤史恵, 木村澄子 (2000.7) 医療用具を用いたプレイセラピーの有効性の検討(小児外科).
- 10) 渡口元子, 山口佐代子, 皆尾恵子, 井手紀世, 福本のりえ (2000.8) 小児科病棟における服薬行動の実際と援助の方向性-社会的認知理論を用いて-(小児科).
- 11) 秦節子, 本地川美枝子, 森脇千賀子 (2000.8) 当科におけるモジュール型プライマリナーシングの検討-看護婦の意識に対する調査より-(泌尿器科).
- 12) 池山理恵, 山本美奈, 鍋谷佳子 (2000.9) 血液疾患で化学療法を受ける患者の口腔ケアについて-有効なブラッシングに着目して-(血液腫瘍内科).
- 13) 坂田真紀, 小林薫, 鍋方美枝子, 梅田瑞恵 (2000.9) 中心静脈カテーテル管理の実態調査(脳神経外科).
- 14) 吉本菜津子, 石橋利枝, 大藪友美, 中橋彩子 (2000.10) 乳房切除患者の夫に対する退院指導後の意識変化(乳腺・内分泌外科).
- 15) 亀田真美, 藤田香奈子, 玉島久子 (2000.10) 骨髄移植後の下肢の筋力低下調査(特殊診断治療部).
- 16) 上谷千夏, 白井じゅん, 武智久恵, 柳川千里 (2000.11) 冠動脈疾患患者への食生活調査表を用いた食事指導と食生活の改善(循環器・腎臓内科).
- 17) 赤根寿里, 此尾由里, 米田直子 (2000.11) 局所麻酔下手術中の患者に対して音が及ぼす精神的影響について(手術部).
- 18) 嶋谷可愛, 島田里香, 前川哲 (2000.12) 救命救急センターにおける自己抜去事故の実態調査-事故報告書の分析より-(救